

農林水産省委託プロジェクト「脱炭素型農業実現のためのパイロット研究プロジェクト」の研究成果を、アグリビジネス創出フェア 2025 に出展しました

「アグリビジネス創出フェア 2025」が 2025 年 11 月 26 日（水）から 28 日（金）の 3 日間、東京国際展示場（東京ビッグサイト）で開催されました。このフェアは、企業、大学、公設の研究所等が、最新の技術や研究成果を紹介するイベントです。このイベントに、農研機構が代表を務める「**脱炭素型農業実現のためのパイロット研究プロジェクト**」（研究開発責任者：遠藤和子領域長）（事務局：芦田敏文上級研・藤井清佳研究員）の研究成果を出展しました。

本プロジェクトは、農業分野における気候変動緩和技術導入の加速と脱炭素化に貢献することが目的です。そのために、水田、施設園芸、畜産・畑作における温室効果ガス排出削減と生産性向上を両立する緩和技術システムを開発し、パイロット実証地区と研究所で試験を重ねています。農研機構（農工研、農環研、畜産研、中農研、北農研）、産業総合研究所、北海道立総合研究機構、栃木県農業研究センター、慶応大、早稲田大、ネポン(株)、ホルトプラン(同)が協力し、以下の 4 つの小課題を進めています。

- 小課題 1：水田発生 GHG 排出削減技術と生物多様性保全の最適化 ※GHG：温室効果ガス
- 小課題 2：地域資源を活用した園芸施設における GHG 排出削減と生産性向上技術の開発
- 小課題 3：有機性資源エネルギー利用促進を支える畜産・農地の資源循環営農技術の開発
- 小課題 4：緩和技術導入による営農評価および地域経済・環境影響評価手法の開発

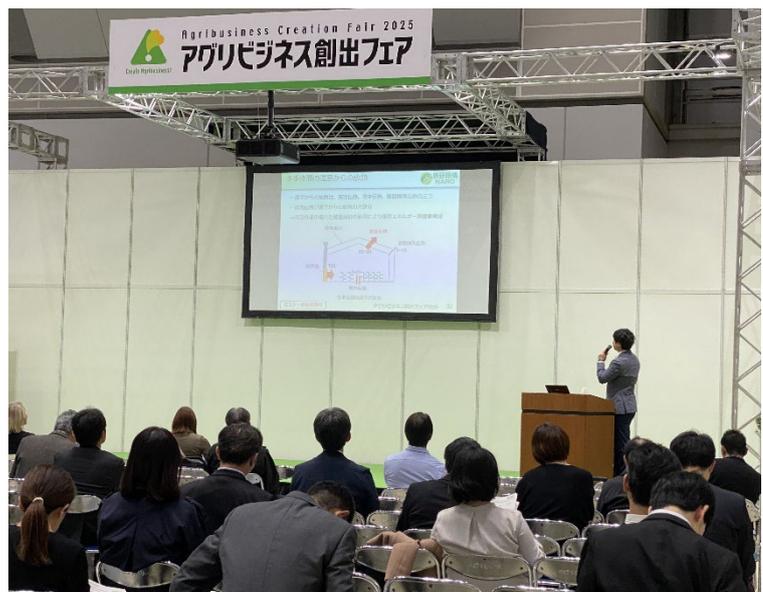
展示ブースでは、各小課題のパネルを説明しました。また、農工研が企業と協力して開発した「直接膨張式ヒートポンプ」の小型実演機を展示しました。実演では、タンク内の水（地下水を想定）の熱を利用した冷暖房の効果を体感していただきました。さらに、最終日のメインステージにおける講演では、メタン発酵残渣の散布機械「スラリーインジェクター」等の動画も交えながら、研究成果をわかりやすく解説しました。社会実装につながる貴重な機会となりました。ご来訪、ご聴講くださいました皆様に御礼申し上げます。



解説パネルとヒートポンプの展示



関研究員による説明



大橋研究員の講演（メインステージ）

（文責：地域資源利用・管理グループ 森山英樹）